青年部ＦＡＸ速報

FAX飛躍

No. 018

2019年　1月　26日

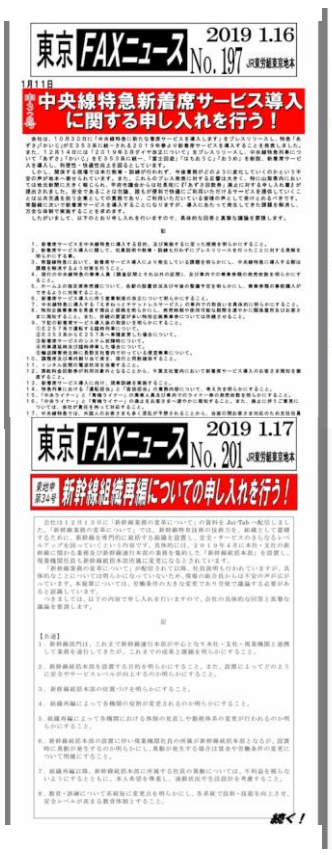
ＪＲ東労組東京地本青年部

安全は輸送業務の最大の使命である。

しかし合理化・効率化の名のもとに、余裕やゆとりのない業務や施策を行っていくと、人や設備に起因する事故を起こすリスクは当然高まります。

会社の「変革2027」の発表から矢継ぎ早に施策の立案と提起がなされ、実施されようとしています。内容をみると合理化、効率化、外注化を最優先として、現場実態にそぐわない内容となる可能性を孕んでいます。結果として生じる負担は「すべて現場」に押し付けられることになります。すなわち、現場第一線の社員やお客様、パートナー会社などが影響を受けることになるのです。経営の問題にもなる各施策の内容を明らかにし、改善させるために組合員の気付きと改善させる労働組合が必要となります。

地本による各種施策への申し入れ

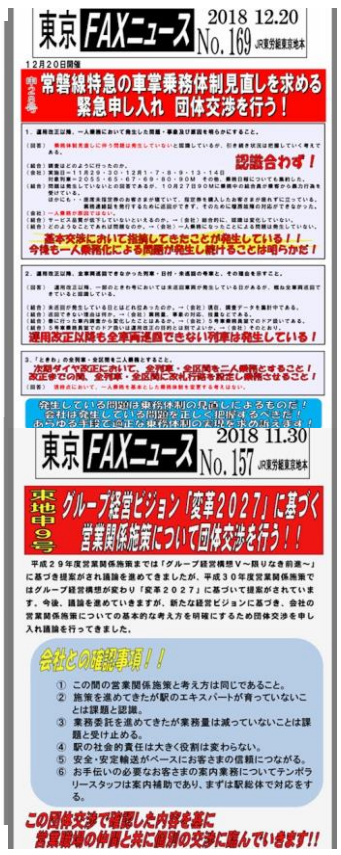

東京FAXニュース 2019 1.16 No.197 JR東労組東京地本

1月11日

中央線特急新着席サービス導入に関する申し入れを行う！

東京FAXニュース 2019 1.17 No.201 JR東労組東京地本

新幹線組織再編についての申し入れを行う！


東京FAXニュース 2018 12.20 No.169 JR東労組東京地本

12月20日開催

常磐線特急の車掌乗務体制見直しを求める緊急申し入れ 団体交渉を行う！

認識合わず！

基本交渉において施策してきたことが発生している！！

今後も一人乗務化による問題が発生し続けることは明らかだ！

運用改正以降も全車両運用できない列車は発生している！

東京FAXニュース 2018 11.30 No.157 JR東労組東京地本

グループ経営ビジョン「変革２０２７」に基づく営業関係施策について団体交渉を行う！！

会社との確認事項！！

① この間の営業関係施策と考え方は同じであること。
② 施策を進めてきたが駅のエキスパートが育っていないことは課題と認識。
③ 業務委託を進めてきたが業務量は減っていないことは課題と受け止める。
④ 駅の社会的責任は大きく役割は変わらない。
⑤ 安全・安定輸送がベースにお客さまの信頼につながる。
⑥ お手伝いの必要なお客さまの案内業務についてテンポラリースタッフは案内補助であり、まずは駅総体で対応をする。

この団体交渉で確認した内容を基に営業現場の仲間と共に個別の交渉に臨んでいきます!!

最近、運車系統の職場では、3月のダイヤ改正で会社から示された行路に悲鳴や怒りの声が上がっています。年々拘束時間や乗務キロが延びていましたが、今回は新たな勤務制度の目いっぱいの中身となっています。睡眠時間が元々少ない行路に、更に乗務が追加されているなど、安全運行そのものへ不安の声も出されています。他の営業や工務においても疲弊した状態で判断が求められた場合、ミスする可能性が高くなります。個人に責任を押し付け、危険を顧みない施策には反対する必要があります！

事故が起きてからでは遅いのです！

組合員一人ひとりが声を挙げ、改善させましょう！